

安城市内景況調査結果 (平成23年7月～9月)

〈 業況は大震災前に持ち直すものの、円高の影響が懸念 〉

1. 調査対象 対象企業数 会議所役員・会員事業所 63企業

2. 調査対象時期 平成23年7月～9月期

(1)前年同期(平成22年7月～9月)と比べた今期の状況

(2)今期と比べた来期(平成23年10～12月)の先行き見通し

3. 企業数内訳

	製造業	小売・卸業	建設業	サービス業	計
企業数	25	16	12	10	63
構成比	39.6%	25.4%	19.1%	15.9%	100%

安城市内の今期の業況判断DIは、前年同期と比較し21.3ポイント上昇した。雇用人員以外はポイントが上昇した。また、借入難度が全産業ともプラスとなった。

来期の業況判断DIについては、1.6ポイントの上昇を見込んでいる。円高の影響も受け、回復に向けた先行きは横ばいの予想である。

【産業別の状況】

- ・製造業では、業況判断・売上高・売上単価が前期対比を下回ったものの、来期の見通し業況判断は、4.0ポイントと上昇した。
- ・小売・卸業では、業況判断が△6.3ポイントであったが、来期の見通しは、売上高・売上単価ともに、△25.0ポイントであった。
- ・建設業では、売上単価が△58.3ポイント前回と同様のポイントとなった。来期の見通しも全業種の中で、最もマイナスポイントが高くなった。
- ・サービス業は、業況判断・売上単価ともに△30.0以上であり、来期の見通しも同様に△30.0以上を上回った。

	前年同期比 (前回)	前年同期比 (今回)	来期の 見通し
業況判断	△37.2	△15.9	△14.3
売上高	△37.2	△23.8	△15.9
売上単価	△41.0	△33.3	△23.8
資金繰り	△25.6	△15.9	△11.1
借入難度	△16.7	17.5	9.5
収益状況	△35.9	△20.6	△15.9
雇用人員	△1.3	△3.2	△7.9

凡例▶ 30以上 10を超える 10～△10 △10を超える △30以上

		全 産 業									
		製 造 業		小 売 ・ 卸 業		建 設 業		サ ー ビ ス 業			
前 年 同 期 対 比	業 況 判 断	△15.9		△20.0		△6.3		△8.3		△30.0	
	売 上 高	△23.8		△28.0		△18.8		△25.0		△20.0	
	売 上 単 価	△33.3		△40.0		6.3		△58.3		△50.0	
	資 金 繰 り	△15.9		△4.0		△43.8		△16.7		△0.0	
	借 入 難 度	17.5		20.0		25.0		8.3		10.0	
	収 益 状 況	△20.6		△28.0		6.3		△33.3		△30.0	
	雇 用 人 員	△3.2		△4.0		0.0		8.3		△20.0	
来 期 の 見 通 し	業 況 判 断	△14.3		4.0		△18.8		△33.3		△30.0	
	売 上 高	△15.9		0.0		△25.0		△33.3		△20.0	
	売 上 単 価	△23.8		△16.0		△25.0		△33.3		△30.0	
	資 金 繰 り	△11.1		12.0		△12.5		△41.7		△30.0	
	借 入 難 度	9.5		16.0		18.8		△8.3		0.0	
	収 益 状 況	△15.9		8.0		△6.3		△58.3		△40.0	
	雇 用 人 員	△7.9		△8.0		△12.5		△8.3		0.0	

※DIとは、「ディフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目について「増加」(好転、やや好転)した企業割合から、「減少」(やや悪化、悪化)した企業割合を差し引いた値である。例えば、売上で「増加」25%、「不変」60%、「減少」15%の場合のDIは、25-15=10となる。

今後も、四半期ごとに景況調査を実施いたしますので、ご協力の程よろしくお願いたします。

なお、詳しい指標は、当所ホームページの「景況調査」のページをご覧ください。